(2019.4改正)

＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：特別養護老人ホーム南さいわい（従来型）		種別：特別養護老人ホーム
代表者氏名：施設長　己斐　聡美		定員（利用人数）：　100名
所在地：　〒212-0016　　川崎市幸区南幸町3丁目149-3		
TEL：044-542-3695		ホームページ： https://www.misasakai.or.jp/
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成25年5月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人三篠会		
職員数	常勤職員：　53名	非常勤職員：　44名
専門職員	医師　1名	相談員　2名
	看護職員　4名	調理員　8名
	事務員　4名	その他（宿直、日直、技術員）6名
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	100室 （従来型個室22室、多床室78室）	個浴8か所、特殊浴槽2か所、 共同生活室8か所

③理念・基本方針

法人理念：歩・実・心
施設方針：利用者本位。（子どもたちや高齢者のことを中心に物事を考える姿勢）
外部意識。（保護者・家族、地域・ボランティア等、お越しくださった方へのおもてなし心や関わっていく姿勢）
お互いさま。（職員関係：お互いを尊重する）
チャレンジ。（ベストサービスへの挑戦：一歩前に踏み出す気持ち）

④施設・事業所の特徴的な取組

ノーリフティングケアを施設全体で進めており、年間計画のもと、施設内研修を1回/月実施し、外部講師による指導を半年毎に受けている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年7月20日（契約日）　～ 2022年4月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（令和元年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

定期的にノーリフティングケアに関する研修を行い、職員の知識、技術習得を図っている

法人の特徴でもある「ノーリフティンングケアの導入」に関しては、毎月ノーリフティング推進委員会を設け、ベッド上のポジショニングの振り返りなどを実施している。また、定期的にノーリフティングケアに関する研修を行い、職員の知識、技術習得を図っている。新任研修でも多くの時間を使い、指針・用具・活動内容の説明が行われ、技術及び実技の指導、演習も実施されている。日々のOJTの中でも技術に関する指導が行われており、ノーリフティングケアに対する職員の意識の高さが伺える。利用者に関しても、拘縮の改善や姿勢の改善、嚥下機能の向上、食事摂取量の増加などの効果が見られており、身体機能の維持・向上に繋がる取り組みとなっている。

研修体制を充実させ、職員の資質の向上に努めている

年間研修計画の作成時には、職員の参加したい研修の希望を把握するように努めて、それを考慮しつつ、職員の現状のスキルなども確認し、足りない部分が補足できるように、施設長と相談員、統括介護主任で検討して作成している。突発的な外部研修などがあった際にも職員の参加希望を確認するようにして、年間研修計画書にもとづきバランスを考えて決定している。その際に外部研修との兼ね合いで立て続けで職員が似たような研修に参加してしまう場合には、年間研修計画の見直しを行い、次の月に調整を行っている。また、内部研修での各研修は、各委員会が中心となって施設の現状のサービス内容や目標、課題などを含めた研修内容になるよう考慮して実施するように取り組んでいる。

◇改善を求められる点

コロナ禍における面会方法や手段を充実させることが望まれる

利用者家族へは状態変化が生じた際に生活相談員が迅速に電話連絡を行ったり、定期的に写真やハガキを送付して施設での生活の様子を伝えている。利用者家族アンケートからも、「電話や手紙で逐一報告があり、ありがたい」「定期的に報告があり安心」との意見が多く見受けられており、好評と伺える。しかし感染症蔓延の影響により、利用者家族の面会方法に制限がかかっており、窓越しでの１５分間となっている。家族からも「面会ができない」「職員付き添いの面会の為、ゆっくり話せない」などの意見も見受けられるため、感染症対策を行いつつ、利用者・利用者家族が満足できるような安全な面会方法の検討が望まれる。

実習生やボランティが円滑に活動できる仕組みを充実させることが望まれる

実習生の受入れ時には、施設長が中心となって実習生への聞き取りや学校のプログラムに合うような実習内容を用意するようにしているが、実習生に対する対応がスムーズに行えるようにマニュアルの整備などの検討が望まれる。また、ボランティア受入れ時でも、事前の打ち合わせは行っているものの、ボランティアに対する対応が職員でスムーズに行えるよう研修などを設けることの検討も期待される。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

ノーリフティングケアの考え方や支援方法については、移動・移乗場面だけではなく24時間を通じてケアを工夫することができ始めていると感じている中で、外部の方からも評価をいただけたことで、ノーリフティングケアの定着が進んでいると実感できることができた。今後は学ぶだけでなく発信することができるようにしていきたい。

コロナ禍でご利用者様とご家族様には制限の多い生活にご協力いただいており心苦しい状況にある。コロナ禍以前のように、ご利用者や職員と直接顔を合わせて話をする機会が減少している中で、少しでも現状をお伝えできる機会を工夫しているが、引き続き地域等の感染状況を見ながら少しでも満足していただける環境づくりに努めていきたい。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり